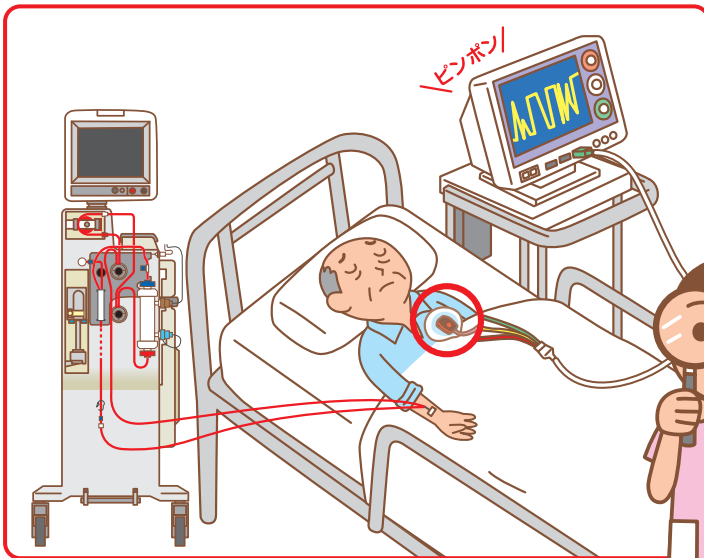


血液浄化の治療中に、心電図にノイズ(波形障害)!



慌てずに、患者さんの状態を確認した上で、必要な処置を施してください。

あっ!

●確認方法

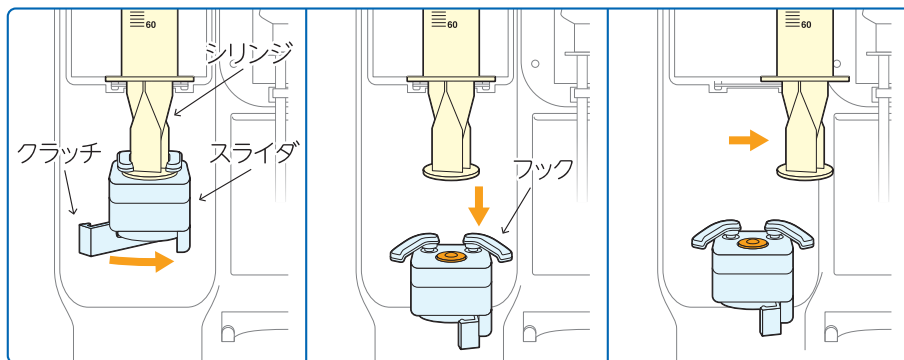
静電気の影響によるノイズの場合、血液ポンプを停止すると消失します。

《対応の参考情報》

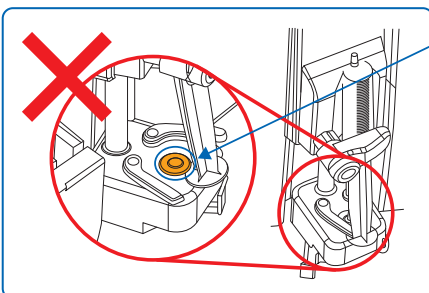
- ①心電計のペーシング検出機能をoffにする。
- ②ポンプチューブに静電防止剤の塗布やスプレーをかける。(一時的な効果)

シリンジ交換時の注意!

《シリンジの取り外し方法》



- ①クラッチを押さえ、フックを広げる。
- ②そのままスライダを下まで移動させる。
- ③シリンジを取り外す。



●ラバーが破れると

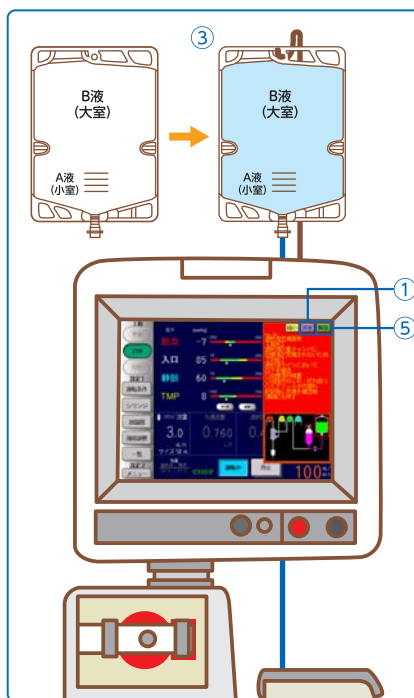
ラバーの裂け目から生理食塩水等で被液すると『シリンジセンサ異常』が発生し、ACH-Σの使用が出来なくなります。修理には、シリンジポンプユニットの交換が必要になります。

空気の量が少ない補充液を使用した時の注意!

補充液が空になっても、液切れ検知器で空気を検知できずに、補液（透析液）充填異常警報が発生することがあります。

【注意】

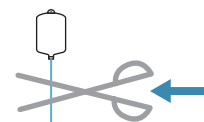
鉗子で回路を閉じずに補充液を交換すると回路内に空気が入り、静脈チャンバの液面が大幅に低下することがあります。治療中は、この液面の低下にも注意し、液面が低下したら、液面調整スイッチを使用して適正な位置に調整してください。



補充液バックが空になり、充填異常警報が発生した場合

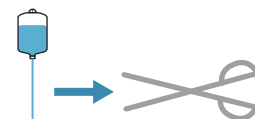
《補充液バックの交換手順》

- ①消音スイッチを押す。
- ②補充液バックに接続している回路を鉗子で閉じる。



- ③新しい補充液バックに交換する。

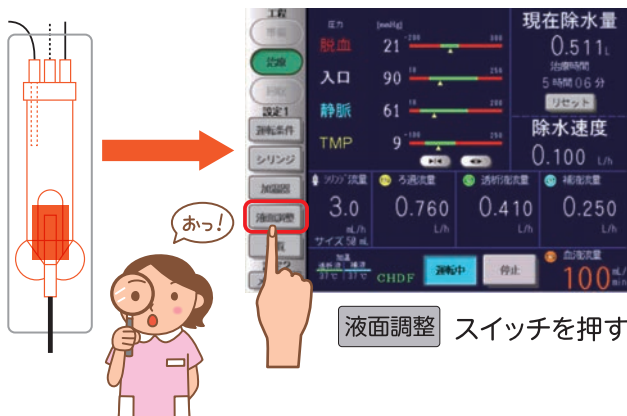
- ④回路を閉じた鉗子を外す。



- ⑤警報解除スイッチを押す。

チャンバの液面が徐々に低下する!?

《液面低下時の操作手順》



この液面が大幅に低下すると気泡検知警報が発生する可能性があるので、注意してください。



補充液には炭酸水素ナトリウムが含まれており、加温すると炭酸ガスが微小気泡に変わります。この**微小気泡**が、**静脈チャンバ**に流入し、液面を低下させます。

冷たい補充液を加温した時やポンプ速度を速くした時などに、気泡の発生量が多くなる傾向があります。

【注意】 液面調整時は、圧力ラインの疎水性エアフィルタを濡らさないように注意してください。

【参考】 この気泡の発生を抑制するには、補充液保管場所と治療現場に室温差がある場合は、早めに補充液を治療現場に移動しておくことがある程度有効です。